

いちご新規参入経営支援マニュアル

チェックポイントと経営試算、
先輩からの助言



平成24年3月

栃木県農業試験場 いちご研究所

〇はじめに

近年、非農家から農業に参入する事例も増えており、特に、本県の主要品目であるいちご栽培の割合が最も高くなっています。

しかし、農外から就農する場合、農地確保や技術習得等の面で、農業後継者と比べハンディキャップが大きく、就農を断念するケースや、経営が軌道に乗るまでに時間を要するケースも散見されます。

一方、県内のいちご経営体の過去 3 年間の推移をみると、経営規模 50a 以下の経営体が減少している半面、50a 以上では増加するなど、いちご経営体の規模は拡大傾向にあります。

これらの状況を踏まえ、新規参入者及び大規模経営体の事例調査を行い、既存の資料等も活用しながら、それぞれで留意すべき点についてチェックポイントとしてまとめました。

更に、新規参入の経営収支試算や、新規参入した方からの助言も記載しましたので、これから新規参入でいちご経営を始めようと考えている方への参考資料として役立てて頂ければ幸いです。

折しも、来年度から 45 歳未満の新規就農者を対象とした支援事業が導入されますが、これを好機として、本県いちご産業の未来を支える人材の確保育成が進むことを期待します。

最後に、今回の調査にご協力頂きました農業者や関係者の皆様に感謝いたします。

平成 24 年 3 月

栃木県農業試験場長 鈴木 崇之

○目 次

1 チェックポイント

- (1) 新規参入する際のスケジュール概略 1
- (2) 新規参入のチェックポイント 2
- (3) 規模拡大のチェックポイント 4

2 新規参入によるいちご経営の収支等試算

- (1) 新規参入の経営モデル 6
- (2) 初期投資等の試算 7
- (3) 所得の試算 8
- (4) 単収と農業所得の関係 9
- (5) 労働時間、雇用労賃の試算 10
- (6) 減価償却費の積算 11
- (7) 資金フローのシミュレーション 12

3 新規就農者への助言

- 経験を踏まえての後進へのアドバイス 13

1. チェックポイント

(1) 新規参入する際のスケジュール概略

新規参入で就農するまでの期間は、「就農相談期」「就農準備期」「就農後」の3段階に分けて考えられる。

就農相談期に必要なことは、①経営イメージの具体化であり、②資金の準備である。①、②をはっきりとさせてから、③栽培技術や④農地、⑤住居を探すことになる。

また、就農支援資金を借入する場合や農地を借りる場合は、それぞれ必要な手続きがあるため、関係機関等の助言を受けながら、遅滞なく進める必要がある。

それぞれのスケジュール感は下表のとおりであるが、期間はモデルケースであり状況により前後する。

期間	就農相談期				就農準備期				就農後			
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
チェックポイント	①経営イメージの具体化 ②資金の準備											
	③栽培技術を身につける 研修先を見つける ← 基礎研修 (4~3月) → ← 実践研修 (8~3月) →											
	④農地を見つける ← →											
	⑤住居を見つける ← →											
	手続関係	(就農支援資金を借入れする場合) 就農計画の策定 認定就農者の認定 就農資金借入申込 農地貸借申請										
栽培関係	親株購入 親株定植 苗取り定植 収穫 ← ハウス・機械等の整備 →											

(2) 新規参入のチェックポイント

いちごで新規参入する際に必要となる項目について、チェックポイントを示した。具体的な計画を考えていく際の参考として活用ください。

いちご新規参入のチェックポイント

①経営イメージの具体化

- 就農候補地が具体的に決まっている
 - 決まっていない場合は、全国新規就農相談センター(事務局：全国農業会議所)に相談ください。具体的な候補地が決まっている場合は、その地域の自治体に、栃木県内で就農を考えている場合は、(財)栃木県農業振興公社にご相談ください。

- 将来のいちご経営のイメージが明確である
 - 栽培規模が決まっている
 - 栽培方法(土耕、高設ベンチ等)が決まっている
 - 販売方法(JA系統販売、直接販売等)が決まっている
 - 所得目標、おおまかな収支が理解できている

- 就農後の生活の具体的なイメージがある
 - ライフプランを立てる、家計簿をつけるなど、イメージを掴んでください。

②資金の準備

- 初期投資の資金として約1,400万円の自己資金がある
 - 就農資金(制度融資)を利用しようと考えている場合には、具体的な就農計画を作成し、県知事による計画の承認が必要となります。
 - 就農計画に記載する、所得目標、労働力、研修計画、資金調達計画等ができる
 - 融資を受ける際の保証人がいる

- 2年間の生活費600万円がある
 - 投資資金は条件により借入できますが、生活費は必ず用意しておく必要があります。600万円は研修期間中及び、1年目の生活費不足分を想定しています。2年目以降、収量が計画を下回る場合はさらに必要となりますので、その分も用意があると安心です。

③栽培技術を身につける

基礎研修

- 肥料や農薬に関する基礎知識がある
- いちご栽培に関する基礎知識がある
- 農業経営に関する基礎知識がある
 - 自治体によっては、栽培技術などを学べる講座等があります。栃木県では、就農準備校「とちぎ農業未来塾」で関連する知識を学ぶことができます。

実践研修

- これまで農作物を育てたことがある
- これまで施設で作物を育てたことがある
- これまでいちごの栽培経験がある
 - 経験がない場合、実地で学ばせてくれる農家の研修先を探す必要があります。
 - 自分で研修先を探すことができる
 - 県内には、新規就農の支援制度「JAはが野新規就農塾」があります。
 - 研修先は自分の経営イメージ（栽培方法、販売方法など）と同じである
 - 研修後もいろいろと相談に乗ってもらえる
 - 研修先農家以外に、部会の青年部や研究部に入ったり、研修会等に参加することも良い機会になります。

④農地を見つける

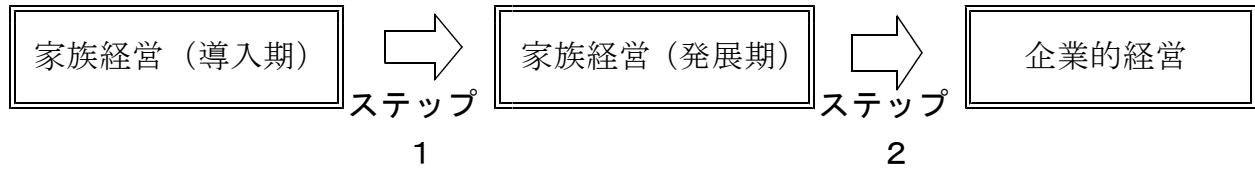
- いちごを作付する農地が決まっている
 - 農地が決まっていない場合は、研修先農家やJA、農業委員会などの理解と信頼関係を得ながら探すことになります。
 - いちご栽培をしていた農地か
 - ハウス等が残っている場合は、施設も賃借することで初期投資額を低く抑えることができます。
 - いちご栽培は初めての農地か
 - その土地がいちご栽培に適しているか、確認して判断しましょう。
 - 井戸があるか、電気が引いてあるか
 - 新たな井戸掘削や電源工事には、百万円単位の費用がかかります。

⑤住居を見つける

- 本人あるいは配偶者の実家に同居することができる
 - 実家に同居することで、費用負担が減ることに加えて、地域の信用を得られやすいメリットがあります。
- 住居と農地が近い
 - 住居と農地が離れていると、栽培管理が行き届きにくくなるので、できるだけ近くで探しましょう。

(3) 規模拡大のチェックポイント

いちご経営における規模の拡大は、以下の発展段階に沿って進むと想定される。このため、この発展段階で必要となるポイントをリスト化した。



いちご経営の規模拡大のチェックポイント

ステップ1

家族経営（導入期）から家族経営（発展期）に移行する際のポイント

【生産関係】

- 栽培履歴、作業日誌を記帳している
- 作業計画に基づき栽培管理している
- 作業マニュアルを作成している
- 新技術を導入し、より効率的な生産をしている

【労務関係】

- 給料制を導入している
- 休日制、労働時間の設定を行っている
- 労働時間はタイムカードなどで管理されている
- 面積、家族労働のバランスにあわせて雇用を導入している
- 作業指示系統が整備できている
- 従業員は労災や傷害保険に加入している

【財務関係】

- 複式簿記を記帳している
- 家計と経営の口座を分離し、経理を明確化している
- 税理士などを利用している

【事業計画】

- 計画的な設備投資を行っている

ステップ2

家族経営（発展期）から企業的経営に移行する際のポイント

【生産関係】

- 生産性の高い作型を導入し、収穫期間の長期化に取り組んでいる
- 苗の外部購入や苗増殖施設の増設を計画している
- 高設栽培等の施設を導入し、軽労化に取り組んでいる
- 管理作業の自動化設備を導入し、省力栽培に取り組んでいる

【労務関係】

- 雇用労働者の技術力を高める研修を行っている
- 経営者以外にも作業指示できる人材の育成に取り組んでいる
- 周年雇用者が確保されている
- 外国人技能実習生の受入れを考えている
- 出荷調整作業の一部を外部に委託し、労力や経費を調整している

【財務関係】

- 原価計算、財務分析を行い、コスト管理をしている

【販売関係】

- 契約栽培など新たな販売方法を検討、導入している
- 商品の付加価値を高めている

【事業計画】

- 5年後、10年後の事業計画がある
- 経営者の経営理念や目標が明確であり、従業員に周知している

(H20県農試成績書をもとに一部加筆し作成)

2. 新規参入による いちご経営の収支等試算

(1) 新規参入の経営モデル

県内で実際に新規参入でいちご栽培を始めた方のヒアリング等をもとに、新規参入を考える際の経営モデルを作成した。

モデル作成に際しては、標準的な就農条件として以下の前提条件を用いた。

前提条件

①経営イメージ

夫婦2人でいちご栽培20aを始める
栽培方法はパイプハウスで土耕栽培
農協の出荷部会に入り、共同で出荷する
年間の生活費は300万円とする

②資金

手持ちの資金は600万円
就農計画を作り、県から計画認定を受け、認定就農者になる
ハウス等の施設整備に係る費用約1,400万円は、就農支援資金で全額借入れ
資金の返済は、2年間据え置きで、以後10年間で均等返済する

③栽培技術

栽培技術を学ぶため、1年間、就農準備校及び農家研修に通う
研修期間中は無収入とする

④農地

農地は借地。借地料は2万円/10a
ハウス、育苗用ハウス等の用地として、40aの農地を借りる
借りる農地には井戸と電気がない。自己費用で整備する

⑤住居

農地の近くに借家を借りる
家賃は生活費の中に含む

(2) 初期投資等の試算

新規参入でいちごを始める際の初期投資等の試算は以下のとおりである。
設備投資に1年目の資材等の経費を加えると、約1,460万円程度が必要である。

パイプハウス 8棟 20a
育苗用ハウス 1棟 3a
農地は賃借 井戸、電気を自費で整備
予冷库、作業舎を整備
軽トラック、小農具は購入 トラクターは賃借

○設備投資費用（減価償却費対象物）

品名	数量	金額（円）	仕訳先
パイプハウス（灌水、ウォーターカーテン込）	20a	6,000,000	減価償却費（10年）
育苗用パイプハウス	3a	900,000	減価償却費（10年）
井戸の掘削、配管	一式	2,500,000	減価償却費（14年）
電気工事	一式	500,000	減価償却費（7年）
予冷库（1.5坪）	1台	500,000	減価償却費（7年）
作業舎		1,000,000	減価償却費（7年）
軽トラック	1台	800,000	減価償却費（4年）
動力噴霧機	1台	300,000	減価償却費（7年）
畦立機	1台	300,000	減価償却費（7年）
合計		12,800,000	

A

*井戸の掘削、配管は条件差が大きい（調査事例では100～400万円）が6戸の平均値を使用した

○設備投資費用（農具費）

品名	数量	金額（円）	仕訳先
硫黄くん蒸器	16台	560,000	農具費
収穫用コンテナ	100個	75,000	農具費
収穫台車	3台	180,000	農具費
ラップ機	2台	30,000	農具費
合計		845,000	

B

初期投資額

13,645,000 円

A+B

○1年目の資材等の経費

品名	数量	金額（円）	仕訳先
定植苗の親株	500本	60,000	種苗費
肥料代		200,000	肥料費
農薬代		300,000	農薬費
定植苗育苗用土	120袋	72,000	諸材料費
ミツバチレンタル	4箱	112,000	諸材料費
外張りビニル、マルチ等		216,000	諸材料費
合計		960,000	

C

必要資金総額

14,605,000 円

A+B+C

(3) 所得の試算

就農1年目から5年目までの収支計画のもととなる所得試算を示した。
条件設定として、単収は4.5トン（H21統計値）を用い、4年目に平均単収の見込みとした。
単価は900円/kgで試算し、1年目は年内出荷の単価（1,500円）の8掛けで試算した。

いちご経営の所得試算

(1月1日～12月31日)

単位：円

項目	積算根拠	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
作付面積 (a)	A	20	20	20	20	20
単収 (kg/a)	B	60	400	430	450	480
生産量 (kg)	$C = A \times B$	1,200	8,000	8,600	9,000	9,600
平均単価	D	1,200	900	900	900	900
収入合計	$E = C \times D$	1,440,000	7,200,000	7,740,000	8,100,000	8,640,000
種苗費	親株500株	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
肥料費		160,000	200,000	200,000	200,000	200,000
農薬費		100,000	300,000	300,000	300,000	300,000
諸材料費	(2)初期投資等の 試算表を参照	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
農具費	(2)初期投資等の 試算表を参照	845,000	10,000	10,000	10,000	10,000
修繕費	減価償却額の6%	64,800	86,400	86,400	86,400	77,400
動力光熱費		200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
雇用労賃費	(5)労働時間、雇用 労賃の試算を参照	30,000	390,000	390,000	390,000	390,000
支払地代	2万円/10a	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
賃借料金	トラクター等	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
減価償却費	(6)減価償却費の 積算を参照	1,080,000	1,440,000	1,440,000	1,440,000	1,290,000
出荷経費	手数料10% 資材費65円/kg	222,000	1,240,000	1,333,000	1,395,000	1,488,000
経費合計	F	3,341,800	4,506,400	4,599,400	4,661,400	4,595,400
農業所得	$G = E - F$	-1,901,800	2,693,600	3,140,600	3,438,600	4,044,600

(4) 単収と農業所得の関係

作付面積20aで、a当たり収量が200kgから450kgまでの農業所得の推計を算出した。a当たり収量が200kgでは農業所得がマイナスになる。250kg以上あれば農業所得はプラスになるが、430kg以上でないと生活費300万円が賄えず、“実質の赤字”となる。

反収の変化と農業所得の推計

単位:円

項目	積算根拠	単収 (kg/a)			
		200kg	250kg	300kg	350kg
作付面積 (a)	A	20	20	20	20
単収 (kg/a)	B	200	250	300	350
生産量 (kg)	$C = A \times B$	4,000	5,000	6,000	7,000
平均単価	D	900	900	900	900
収入合計	$E = C \times D$	3,600,000	4,500,000	5,400,000	6,300,000
経費合計	F	3,886,400	4,041,400	4,196,400	4,351,400
農業所得	$G = E - F$	-286,400	458,600	1,203,600	1,948,600

単位:円

項目	積算根拠	単収 (kg/a)			
		400kg	420kg	430kg	450kg
作付面積 (a)	A	20	20	20	20
単収 (kg/a)	B	400	420	430	450
生産量 (kg)	$C = A \times B$	8,000	8,400	8,600	9,000
平均単価	D	900	900	900	900
収入合計	$E = C \times D$	7,200,000	7,560,000	7,740,000	8,100,000
経費合計	F	4,506,400	4,568,400	4,599,400	4,661,400
農業所得	$G = E - F$	2,693,600	2,991,600	3,140,600	3,438,600

(5) 労働時間、雇用労賃の試算

栽培規模20aにおける1日あたりの労働時間を経営診断指標をもとにいちご研究所で試算した。夫婦2人の労働時間が合計16時間とすると、それを超える12月下旬以降から4月下旬まで（網掛け部分）は雇用労働力が必要になると想定される。

○旬別労働時間の試算

単位：時間/日

		11月		12月			1月			2月		
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
作業内容	栽培管理	1.8	1.8	1.8	2.4	1.6	1.6	2.4	3.2	2.4	1.6	2.4
	収穫出荷	2.5	8.0	9.0	11.5	16.5	12.0	18.0	18.0	16.0	15.0	14.0
	親株管理											1.2
労働時間合計		4.3	9.8	10.8	13.9	18.1	13.6	20.4	21.2	18.4	16.6	17.6

		3月			4月			5月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
作業内容	栽培管理	2.0	1.2	1.2	2.0	1.6	0.8	0.0	0.0
	収穫出荷	12.0	16.0	15.0	15.0	14.0	14.0	10.0	5.0
	親株管理	1.2	1.6	0.7	2.3	1.3	1.3	1.8	0.9
労働時間合計		15.2	18.8	16.9	19.3	16.9	16.1	11.8	5.9

○雇用労賃費の積算

網掛け部分の12月下旬から4月下旬まで継続して、半日4時間で1人雇用する。時給は750円とした場合、雇用労賃費は390,000円となる。

$$4\text{時間} \times 130\text{日} \times 750\text{円} = 390,000\text{円} \quad (\text{1年目は12月下旬の30,000円のみ所得試算に算入})$$

(6) 減価償却費の積算

いちご経営における減価償却費の積算根拠は下表のとおりである。
単年度の償却額は1,440,000円となるが、初年度は就農した4月から12月までの9ヶ月間で計算し、1,080,000円とした。5年目は軽トラックの償却残5万円のみ算入し、1,290,000円となる。

品名	購入金額	耐用年数	単年度の償却額
パイプハウス	6,000,000	10	600,000
育苗用パイプハウス	900,000	10	90,000
井戸	2,500,000	14	178,571
電気	500,000	7	71,429
予冷庫	500,000	7	71,429
作業舎	1,000,000	7	142,857
軽トラック	800,000	4	200,000
動力噴霧機	300,000	7	42,857
畝立機	300,000	7	42,857
合計	12,800,000		1,440,000

(7) 資金フローのシミュレーション

いちご経営における年ごとの資金のフローを試算したものが下表である。資金を借入れした場合には、手持現金が600万円以上ないと、期末現金が赤字になると想定される。また、自己資金で設備投資を行う場合には、2,000万円以上ないと、1年目の期末現金が赤字になると想定される。

ケース1 資金1,460万円を借入れした場合

項目		0年目 *1	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
期首現金 *2	A	6,000,000	3,750,000	888,200	2,021,800	2,141,900	2,560,000
借入金 *3	B	0	14,605,000	0	0	0	0
いちご所得	C	0	-1,901,800	2,693,600	3,140,600	3,438,600	4,044,600
減価償却積立	D	0	1,080,000	1,440,000	1,440,000	1,440,000	1,290,000
1年目経費分戻し	E		960,000				
施設整備費用	F	0	14,605,000	0	0	0	0
生活費	G	2,250,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
借入金返済 *4	H	0	0	0	1,460,500	1,460,500	1,460,500
期末現金 *5	J	3,750,000	888,200	2,021,800	2,141,900	2,560,000	3,434,100

注 *1 0年目とは研修期間中（4～12月）の無収入期間を想定

*2 手持現金を600万円とする

*3 就農1年目に施設整備、作業庫、機械等の購入費1,460万円全額を資金借入

*4 資金は据置2年で以後10年間で均等返済

*5 $J = (A+B+C+D+E) - (F+G+H)$

ケース2 借入れしない場合

項目		0年目 *1	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
期首現金 *2	A	20,000,000	17,750,000	283,200	1,416,800	2,997,400	4,876,000
借入金	B	0	0	0	0	0	0
いちご所得	C	0	-1,901,800	2,693,600	3,140,600	3,438,600	4,044,600
減価償却積立	D	0	1,080,000	1,440,000	1,440,000	1,440,000	1,290,000
1年目経費分戻し	E		0				
施設整備費用	F	0	13,645,000	0	0	0	0
生活費	G	2,250,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
借入金返済	H	0	0	0	0	0	0
期末現金 *3	J	17,750,000	283,200	1,416,800	2,997,400	4,876,000	7,210,600

注 *1 0年目とは研修期間中（4～12月）の無収入期間を想定

*2 手持現金を2,000万円とする

*3 $J = (A+B+C+D+E) - (F+G+H)$

3. 新規就農者への助言

経験を踏まえての後進へのアドバイス

今回の新規参入の事例調査にご協力頂いた6戸の農家の方に、これから新規参入でいちご経営を考えている方へのアドバイスをお聞きしました。

先輩方の経験を今後の参考に活かして頂ければと思います。

質問項目は次の6つです。

- Q 1 研修先はどのように探したか？
- Q 2 就農前の研修期間はどのくらいあれば良いか？
- Q 3 自己資金はいくら用意すべきか？
- Q 4 農地はどのように確保したら良いか？
- Q 5 何年で経営が軌道に乗ることが理想か？
- Q 6 これから新規就農を考えている人へのアドバイス

なお、年齢、家族構成、栽培規模等は就農当時のものです。就農〇年目は、平成23年夏の時点での年数になります。

氏名 Aさん(足利市) 52才 就農7年目
労働力 本人、妻、パート3人(通年1人、臨時2人) 栽培規模 하우스26a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→就農を考えたときにJAに相談したが、そのJAから先進農家を紹介してもらった。研修先の農家には農地の選定等のアドバイスもしてもらった。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→自分の場合は、8月～翌年の3月までの9ヶ月間、週に6日通って技術等を学んだ。その間は研修なので無報酬。研修先からハウス1棟を預けてもらって、アドバイスをもらえると良かったと思っている。

並行して、農大の研修を4月～翌年3月まで受講した。農大の研修では県内の先進農家を見学する機会もあって、これからの経営を考えるプラスになった。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきだと思いますか？

→自分の場合は毎月決まった給料で生活する習慣ができていたので、就農したからといって、急に支出を減らすことは難しいと思っていた。就農する人の生活パターンによって、かかる生活費は違うため、一概にいくらとはいえない部分もある。

ただ、1年半の間の生活費や、細かな資材費等の支出も結構あるので、1,000万円程度は用意しておいたほうが安心だと思う。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→はじめ、個人的に心当たりがあった群馬の農地でいちご栽培することを考えていたが、研修先の農家に現地を見てもらったところ、いちご栽培には向いていないと判断された。そこで、JAの職員が顔見知りの人と調整してくれ、現在の地主から借りることができた。農地は知らない人に貸すことはないので、信頼できる人が間に入ってくれれば借りることができる実感している。就農してきちんと農地を管理しているので、隣接の畑も借りてほしいと言われるようになった。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→自分の場合は1年目は赤字、2年目以降は黒字になっている。就農前に収支計画を作ったが、ほぼ計画どおりには進んでいると思う。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→施設の建設費や農薬肥料等の資材費は上昇しているが、いちごの販売単価は逆に下がっている。これから始める人にとっても経営環境は厳しいと思う。自分の場合は、すべてJA出荷では経営は厳しいと考え、直売の比率を増やす工夫をしている。直売を考えるならば、周りに競争相手がいないところがいいですよ。

氏名 Bさん(真岡市) 39才 就農5年目
労働力 本人、パート2名 栽培規模 ハウス18a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→前職(農業関係)の人脈を通じて研修先を探して頂きました。研修を受け入れてもらう前に、受入先の方と面談する機会がありましたが、この段階で、技術や経営に対する考え方、研修中や終了後の関わり方等、話をしっかり聞けたことが円滑な研修に役立ちました。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→8月から翌年4月まで9ヶ月間、受け入れて頂きました。理想は1年間一通りの作業を学ぶことだと思います。それより短い期間だと学べない作業があることと、研修先も受け入れづらくなります。また複数年だと研修か労働かあいまいな部分があるので、難しいと思います。

農業技術関連の情報収集には、最低限の基礎知識が必要です。農大の講習会等を受けたことはその点で大いに役に立っています。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→私は2,000万円弱の自己資金を用意し、固定資産の投資と初年度の運転資金の合計で1,000万円程度を要しました。固定資産の投資額については、経営指標等をもとに必要額が出せますが、運転資金は売上が見込みどおりに入るとは限りません。私も多くの失敗や不可避の事故に遭遇しており、資金は多めに用意することをお勧めします。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→JA 営農担当者からの紹介で、リタイアするイチゴ農家の農地と施設を借りることができました。就農2年目で規模拡大しましたが、その際は研修先の親戚の方の農地を紹介して頂きました。このため農地を借りる苦労はあまりしていません。

農地には適不適があり、収量や作業効率を通じて長く収益に影響します。今後の規模拡大にあたっては十分に吟味して決定するのを感じています。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→理想は初年度から経営指標が示すような売上を得て、運転資金を回収することですが、開業後しばらくは経験の浅さゆえの失敗は必ずあると考えた方がよく、このような状況を回避できるようになることが軌道に乗ることだと思います。私はまだこうした段階に至っておらず、借りられる機械は借りる、できる工事は自分でする、遅い時期まで収穫を続けるなど、かなり無理をして収支を合わせているのが現状です。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→他の仕事を辞めて開業する、特に移住して開業する場合には、土地や機械、施設がなく、家族労働力もない状況で、頼れるのはもっぱらお金ということも多いと思います。しかし、作物にあった農地を斡旋してもらえるか、業者が親身に施設を設計してくれるか、誠実に仕事してくれるパートさんが集まるか等、人脈や情報がない中でお金だけでは解決できない問題もたくさんあります。お金に頼る局面と人脈構築と情報収集が必要な局面を見定めておくことをお勧めします。

労働力調達を例にとれば、私は普通に仕事をしてもらえるパートの方を揃えるのに3年を要しました。開業当初は労働需給がタイトで、人づてに声をかけて頼んだのですが、よそ者のところには良い人が回ってこない状況で作業水準の低さに苦労しました。現在はハローワークから紹介される方の水準が高くなり、よそ者でも労働力の調達が容易になりました。この点で、新規参入のハードルは下がったといえるのでしょうか。

氏名 Cさん(宇都宮市) 38才 就農11年目
労働力 本人、妻、パート2名 栽培規模 ハウス22a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→期間を決めた研修には行きませんでした。農業関係の営業の仕事をしており、県内のいろいろな農家に入ったりしていたので、そこで知識や技術を見聞きしながら覚えました。

Q2 研修にいかず、栽培技術の不安はなかったですか？

→就農してからやりながら覚えました。支障はなかったですね。ただ、わからないことは多く、その都度、知り合いの農家に遠慮せずにどんどん電話して教えてもらっていました。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきだと思いますか？

→ハウス20aの規模で諸々含めて1,000万円必要ですから、最低でも1,000万円は自己資金で用意してスタートすべきです。まずはそれが最低額です。できればプラス生活費300万円も欲しいところですが。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→私の場合は100人の農家に片っ端から電話をして探しました。研修先があれば、そこで紹介してもらおうとスムーズだと思います。これまで私の法人で研修した人たちも農地の確保が一番苦労しています。研修生には、私に話が合った農地を紹介しています。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→私の場合は、栽培そのものでは2作目以降黒字です。ただし規模拡大や経営の多角化で新規の投資を重ねているので、減価償却額はかさんでいますが。経験的に2～3年うまく乗り切れれば、後は大丈夫だと思っています。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→私のところにもいろいろな人が新規就農したいと相談に来ますが、現状認識がない人や考えが甘い人が多いです。栽培ができて経営ができないと失敗しますので、経営する覚悟が必要です。それから就農後は地域の人とうまくやっていけるか否かが重要なので、人の忠告を素直に聞くことができることも大切ですね。

氏名 Dさん(野木町) 34才 就農8年目
労働力 本人、妻 栽培規模 ハウス13a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→職場の同僚が農業資材の会社の息子で、彼の父親を通じて研修先の候補を3軒紹介してもらいました。仕事の休みの日に直接会って話をし、研修先を決めました。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→自分の場合は9月から翌々年の3月まで1年半、週に5～6日研修をしました。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→自分の場合は家を先に入れてしまったので、栽培スタート時には300万円程度しかありませんでした。ただ、いちごを廃業する農家のハウスを借りることができたので、初期投資は少なくすみまし、肥料代や資材代はいちごの収穫代金が入ってから支払いにしてもらうなど、周りにも融通してもらったことが大きいです。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→研修先を紹介してくれた資材屋さんと一緒に、いろいろな物件を回りましたが、これほど思うものがなかったので、農業委員会に相談して、その紹介があった物件で決めました。ただ、ハウス付きだったため、地代が年40万円と高かったので、3年契約終了後は更新しなかったです。現在の農地も農業委員会から紹介してもらいました。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→1年目は全くの赤字、2年目は若干の赤字で、3年目から黒字になりました。新たにハウスを建てたりと投資をしているので、大きな収益の伸びはありません。現在はコストを削減しながら経営を成り立たせています。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→自分の場合は地域に溶け込むことが最初だと思ったので、家を買うことを優先させました。農業の場合、地域とうまくやっていくことが大切なので、地域の行事には積極的に参加するなど、自ら集まりなどに入っていき、ポイントだと感じています。

氏名 Eさん(矢板市) 43才 就農8年目
労働力 本人、パート1人 栽培規模 ハウス20a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→いちごを栽培している知人がいたので、その知人から農家を紹介してもらった。
仕事が休みだった土日に研修に行きました。当初の予定では1年だったが、苗の管理も
学びたかったので、1年半になった。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→全体の期間の長さというよりも、作業の要所要所を押さえることが大切ではないか。最低
で月に2～3日行けば、概略は理解できると思う。後は自分で経験しながら学ぶもの。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→自分の場合には、自己資金で600万円を用意しましたが、結構予定外の費用がかかり、
自己資金があつて助かった部分も多かったです。無収入期間の生活費として夫婦で年間
300万円は必要だと思うので、プラス予定外の支出を考えると、500～600万円は必要と
思います。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→私は妻の実家の土地で就農したので、自分で探した経験はありません。ただ、今の土地が
風が強く自然災害に遭いやすいなど、就農して気付いたこともあったので、立地条件は近
隣の農家の人などによく聞いてみた方が良いと思います。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→研修で学んだといっても、毎年経験を積んでいくことで身に着くものが多い。早くて5年
はかかるのではないのでしょうか。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→これからの時代は食べ物を作ることが再評価されると思います。販売先も国内だけでなく
海外への輸出も考えられる時代なので、自分なりに勉強していくと良いのではないでしょ
うか。

氏名 Fさん(高根沢町) 36才 就農4年目
労働力 本人、両親 栽培規模 ハウス15a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→とちぎ農業未来塾で知り合った人がいちご農家の後継者で、その人のところで研修することに決めた。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→自分の場合は、学校(未来塾)の合間をぬって、週に1~1.5日程度研修に行きました。育苗、定植準備、定植、収穫、パック詰めなど一通りの作業を覚えることが重要なので、ポイントごとに半年くらい通えば良いのではないのでしょうか。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→無収入のときの生活資金は人によるので一概には言えませんが、経験が浅い分、栽培に失敗することもあり得るので、2年分ぐらいの生活費は用意した方が良いでしょう。

Q4 農地はどのように確保したら良いのでしょうか？

→市や県などの公社や関係機関に相談することに加えて、自分の足で探すことが良いと思います。農地は知らない人には貸さないで、まずは自分を知ってもらうことも含めて、幅広く歩くことが良いのではないのでしょうか。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→3年で軌道に乗せるのは難しい。5年やって何とかかなると感じている。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→自分の場合は、いちごを始めることが目的となってしまったという反省もあるので、1年目からしっかりと収穫するつもりで準備したほうが良いです。

いちご新規参入経営支援マニュアル
チェックポイントと経営試算、
先輩からの助言

発行 平成24年3月
編集 栃木県農業試験場 いちご研究所
TEL 0282-27-2715 FAX 0282-27-8469